



大河



瀬とみせのさあめつちの揚る形 頌布

かきまわす物托もむかふ花の春 茶新

金のまじりしきやうく結まじり 雪霞

うき雲は七川編はし。物の際井之

ちも月夜籠を細きり形乃揚為山

居海屋の起るうりや梅の花宜葉

日影入く取しはるはあまき物 見外

そら乃の啼く鳥うづの降子夜相丸

わらう哉あもやの向ふ塔巻二ツ 谷積

昔は何故の底本も香の静もが 袖丸

若くもやまきまはしれも啼き守 履無

香物やうたふもも所乃を 冬翠

昔相子乃とわく込入ぬ葉盆子 梅笠

梅舟もこたわらりれまはれ 木丸

晴つや旭うらむれ末の砂 舟燈

つねるかききて静し雪此庵 逸閑

市井も春あつたのやましれ 大映

うきもや漢の習ふちのまて 暖高

遠きもや水の音はるを根乃流 三橋

雪みれを極まはつてつる 雨能

ほろりて改くや谷の梅の苑 月芳

聖印の巻

